

「子ども県展」で
特別賞を受賞

第54回長崎県小中学校児童生徒美術作品展「子ども県展」が行われ、応募総数5万1103点の中から特別賞に對馬の小中学校児童生徒4人が選ばれました。特別賞は、県内60人に贈られ（知事賞、教育委員会賞、造形教育研究会賞各20人）對馬では、知事賞に久田中学校1年の横山七海さん、豆酸

小学校2年の小田啓由くん、教育委員会賞に豊玉小学校2年の永留大輝くん、造形教育研究会賞に塩浦小学校1年下川真世さんが選ばれました。

教育委員会賞に受賞した永留くんは「絵を描くことが好き、カマキリは目が大きくて、ビックリしているように見える」と作品を説明してくれました。どの作品も自分の感じ方、考え方を大切にしながら作品で、生き生きとした表情や工夫を凝らした色彩が印象的です。

造形教育研究会賞



題:「てつぼうだいすき」
塩浦小学校(1年)下川真世さん

知事賞



題:「がんばったうんどうかい」
豆酸小学校(2年)小田啓由くん

知事賞



題:「久田浜光景」
久田中学校(1年)横山七海さん

教育委員会賞



題:「ドッキリ カマキリ」
豊玉小学校(2年)永留大輝くん

隠れた対馬の名所を巡る

つしま HOT SPOT

豊砲台

対馬の最北端に「海照らし」で有名な「ヒトツバタゴ（別名：なんじゃもんじゃ）」の群生地があります。このヒトツバタゴは大陸系の植物で日本では珍しく、5月の上旬には鱧浦地区一体に白い花を咲かせ、島内外から多くの観光客で賑わいます。

この鱧浦地区の隣に豊という地区があり、そこには世界最大の巨砲といわれた豊砲台という旧要塞の跡が残っています。これは、第一次大戦後、日本海に進入する敵艦船に対し、対馬海峡を封鎖することで制海権を確保するために、昭和4年5月（1929年）から約5年の歳月をかけて造られたもので、演習射撃をする

と、地震のように激しく揺れるほど凄かったです。

この砲台は、大正11年（1922年）にワシントン海軍軍縮条約が締結されたことから、天城型巡洋戦艦として建造中であつた「赤城」が航空母艦に改造されることとなつたため、搭載予定であつた四十五口径40・6センチ加農砲一基二門の砲塔砲



台を設置したという説のほか、戦艦土佐や戦艦長門のものであるとの説もあります。

しかし、実戦では一発の弾丸も発射することなく終戦を迎え、昭和20年4月には米軍により解体、砲身は八幡製鉄所で溶かされて戦後復興の資材として活用されました。

このような施設が再び作られる時代が来ないことを切望し、現在は公園として整備がされていますので、一度、足を運んでみてください。

対馬市役所観光物産推進本部
0920(53)6111
メールアドレス

asightseeing@city_tsushima.jp